

語学コンクール報告

フランス語フランス文化コース
第二十回初心者のための
九州フランス語コンクール

今年は第二十回の記念となるコンクールは七月一日(日)に九州日仏学館(福岡)で行われました。十九名の参加者中、本学からは七名の学生が参加し、以下のとおり、二位から五位までに入賞しました。

- 二位 樋口はる奈さん
 - 三位 吉留三香子さん
 - 四位 大倉 梨央さん
 - 五位 橋詰 晃奈さん
- 二位は在日フランス大使館賞で、フランスでの一ヶ月の語学研修(滞在費込み)が自分の希望するところで受けられるものです。樋口さんは提携校のアンジエカトリック大学で研修を受けます。入賞しなかった三名も同様に非常にがんばっていました。(フランス語コース主任阿南 婦美代)

中国語中国語文化コース
五星奨 全西日本大学生
中国語コンテスト
全西日本中国語教育推進協議会等主催
日程：二〇〇七年六月五日
場所：九州産業大学

暗誦二部 第二位
福田知世さん
(副賞 天津師範大学半年留學)

スピーチ 第二位
福島彩子さん
(特別賞 日本代表として世界大会出場)

インタビュ



前回の長崎県中国語コンクール最優秀賞に引き続き右記の大会でもスピーチ部門二位に入賞した福島彩子さん(大学四年生)にお話を伺いました。

五星奨大会の二位入賞おめでとうございます。日ごろの鍛錬の成果がでたと思いが、これまで中国語をどのように勉強してきたのか教えてください。

福島さん「中国語は大学に入ってから始めました。もともと中国語を勉強したくて大学を選びました。思ったように伸びなくて悩んだこともありましたが、留学を経験する中で会話することに慣れ、帰国してからは中国人の友人を相手に互いにそれぞれの言語

を教えあひながら上手くなってきたような気がします。また、留学先の北京(首都師範大学)で友人になった学生が今度は長崎外大にやってきて、交流を続けられたことも大きいかもしれません。」

西日本大会で特別にがんばったことなどはありますか。福島さん「特にこれというのではないのですが、これまでいくつかのコンクールで経験を積んできて、あまり緊張せず

に臨めたことが良かったと思います。芸術パートでは歌を歌ったのですが、とにかく楽しく発表することを心がけました。この大会への参加は一つの大きな挑戦でした。答えられる質問に当たるなど運もあつたと思います。」

慰霊の日を迎えて

長崎県では八月九日を原爆記念日として、原爆被災者の供養と原水爆の禁止と平和を誓う行事が行われていることによく知られているが、六月二十三日は、沖縄県民にとっては忘れられない日である。

第二次世界大戦で日本の敗色がほぼ確定し、アメリカ軍の本土上陸作戦計画が着々と進められる中、その前進基地として沖縄が選ばれた。四月一日に沖縄本島上陸以降沖縄全

そうですが、でも運を味方のできるのも実力があつてこそですからね。八月には第六回「漢語橋」(オリピック)世界大学生中国語スピーチ大会(中国吉林省長春)が待っています。この大会に向けてはどんな準備をしていますか。

福島さん「これまでの大会もそうですが、中国語ネイティブの池先生に細かく指導してもらっています。あとは、世界大会と同じ形式で審査されるので、ちょっと歌の練習もですね(笑)」

それから、県の上海航路の普及・浸透の活動に協力していますよね。

福島さん「はい、外大には留学した学生や留学生が多いの

土が廃墟と化す攻撃を受け、県民の四人に一人が犠牲になるといふ悲劇的な結果に終わった沖縄戦終結の日が六月二十三日である。沖縄県ではこの日は「慰霊の日」として県下いっせいに被災者慰霊と平和を誓う記念の日となっている。

本学にも沖縄県出身の学生もいることから、職員有志の提案により、初めて六月二十三日に、「慰霊の日 in 長崎」と題して反戦を誓う集いを開催した。当日は沖縄県出身者

でそうしたみなさんに協力してもらったりしています。一般のみなさんに説明する街頭活動などのときは、やっぱり実際に行つたことがある人が説明することで説得力が増すと思つたからです。県の方からも感謝してもらつて、役に立ててよかつたと思つています。」

勉強したことを生かして中国との交流に確実に貢献しているわけですね。これからもさまざまな形で続けていけると良いですね。今日はありがとうございました。

福島さん「ありがとうございます(聞き手：企画広報係)

五名の学生を含め十一名の参加であった。三十分ほど簡単な平和記念集會を行い、参加者一人ひとりが平和にメッセージを交換した。その後、反戦平和コンペに入り、遅くまで和気あいあい語り合った。命どう宝!(事務局長 土井信義)



長崎外国語大学
長崎外国語短期大学
文化センター

公開講演会報告

川島浩勝教授講演会 こどもの英語学習から 学ぶもの

二〇〇七年七月五日、長崎外国語短期大学の川島浩勝教授が早期英語教育に関する講演会を行った。早期英語教育では、指導よりも英語を使う場面を設定することによって自主的に英語を話したいと思わせることが大切であると、客



岸 信子さん
短期大学第25回
卒業生

卒業生トピックス

岸さんは、現在熊本県宇土市在住で、七男三女の子どもの母さんでいらつしやいます。家事と育児の傍ら、子どもたちが織りなす日常生活を描いたエッセイや絵本を出版されています。二〇〇七年五月三十一日(木)には本学で講演していただきました。その中で岸さんは「自分のやりたいことよりも、その時その時に一番大切だと思えることを優先して、一生懸命やっていたら、いつか自分の夢が叶えられる」と語りました。
著作紹介
「子育てって楽しいよ!」(熊本

観データをもとに語った。



林秀文氏講演会 近づく裁判員裁判

二〇〇七年六月三十日、長崎地裁部総括判事が、裁判員制度に関する講演を行った。裁判員裁判の導入によって、裁判全体に対する国民の理解が深まり、司法が、より身近なものとして信頼も一層高まることを期待していると述べた。

日新聞社)

「妊娠百ヶ月(日本テレビ)」「こちらたまご应答ねがいます(新風社)」「信子かあさんの今日の絵日記」を、熊本県民テレビホームページ上にて連載中です。



山本 裕子さん
大学第1回卒業生

山本さんは本学短期大学を卒業後第一回の大学三年次編入学生となり、大学第一期生として卒業しました。現在は地元島原に帰り、二〇〇六年度のミス島原として活動しています。
山本さんのコメント
「ミス島原の活動内容は、主に日本各地での長崎や島原の物産・観光のPRです。」

今後の公開講演会の案内

東京大学文学部教授

柴田元幸氏講演会 カズオ・イシグロの文学

日時 十月四日(木)
十六時三十分～十八時
場所 長崎外国語大学・短期大学ホール

講演内容

カズオ・イシグロは一九五四年長崎に生まれ、幼くして英国に移住し、一九八〇年代から英語で作品を発表しはじめ、現在では世界文学における最重要作家の一人となっている。作品を年代順にたど

りつつ、短篇の朗読、映画作品などの紹介も交えて、長崎にゆかりのあるこのすぐれた作家の魅力を紹介したい。

長崎大学経済学部教授 井手 啓二氏講演会 日・中・韓の東アジア 共同体戦略

日時 十一月一日(木)
十六時三十分～十八時
場所 長崎外国語大学・短期大学ホール

講演内容

東アジアの経済の一体化が急速に進んでいる。この動きは、どのように開始され、現在どこまで進んでいるのであるのか? そして、東アジア共同体の形成の動きはどのようなのであるのか? 日本、中国、韓国やASEAN諸国は、どのような戦略や将来像を描いているのであるのか? 以上のテーマをとりあげ、日本、中国、韓国を中心に、その戦略・政策選択についても論じてみたい。

私は本学の留学生の友人とよく長崎や島原を観光していたので、名所や特産物には詳しく、各地の新聞社や市長などを表敬訪問する際も、この知識や経験が役立っています。
また、貴学で取得した英語科の教員免許を活かし、今年度島原で開催される「火山都市国際会議」に向けての、島原市民や島原半島の消防職員への実用英会話講座の講師を担当しています。
そして私的にも、貴学で親しくなった海外の友人たちと日々連絡を取り合い、お互いの国を訪問して交友関係を深めています。
来年度からは本格的に留学をし、これまでの様々な経験を活かしながら、真の国際人として世界に羽ばたきます!

第六回

同時通訳養成講座

国際会議や国際学会など世界の場で活躍しているプロの通訳士を招いての講座です。同時通訳モードLL教室、同時通訳プース付き演習室などで、本格的な訓練を行います。
日程：二〇〇七年八月一日(水)～七日(火)
(七日間連続)
時間：九時～十六時三十分
場所：長崎外国語大学

外国語集中講座

ネイティブ講師による外国語講座です。夏休みの一週間で集中して外国語を学び

ます。英語をはじめスペイン語、韓国語等の六言語九コースを実施します。
日程：八月二日(木)～八日(水)
時間：午前の部/十時～十二時
午後部/十三時～十五時
場所：長崎外国語大学
午前の部
英会話中級「シェイクスピア・ワークショップ」
(講師：サイモン・ウィルキンズ)
英会話上級「英語のユーモア」
(講師：リチャード・ホドソン)
フランス語初級「料理のフランス語」
(講師：シリル・リシュエ)
中国語初級「今を感じる中国語」
(講師：池玉杰)
ドイツ語初級「ドイツ文化に触れてみよう!」
(講師：クラウディア・マラ)

午後部

英会話中級「英語でできる」
(講師：セバスチャン・フラウ)
英会話上級「英語でディベート」
(講師：マーク・テイダマン)
スペイン語初級「スペイン語を楽しく学びましょう」
(講師：ミゲル・アヤラ)
韓国語初級「韓国「泊三日の旅」
(講師：梁正善)

遊んで学べる ジュニアえいご

小学五、六年生を対象とした英語レッスんで、外国人教員と日本人教員がチーム・テイピングを行います。小学生が腕に身につけている算数や理科などに関する知識をベースに知的好奇心を喚起し、ワンランク上の英語表現にもチャレンジできます。
日程：二〇〇七年八月二日(木)～七日(火)
時間：十時～十二時
場所：長崎外国語大学
講師：川島浩勝 セバスチャン・フラウ

長崎外国語大学・短期大学
文化センター

電話〇九五 八四〇 二〇〇六
FAX〇九五 八四〇 二二〇六
平日(月～金)九時～十七時

2008年度春季入学入試 募集人員 大学：160名 短大：80名

長崎外国語大学・短期大学では「推薦入試」、「スカラシップ入試」、「一般入試」、「センター利用入試」など、さまざまな入試制度を通じて、本学で学んで欲しい学生を選抜しています。

Table with columns: 入試種別, 出願期間, 試験日, 合格発表日, 試験会場. Rows include 推薦入試, スカラシップ入試, 一般入試 (A/B/C日程), センター利用入試, 特別入試, and A〇入試.

詳しくは大学・短大各「2008年度入試要項」をご覧ください。学校案内、入試要項をご希望の方は入試広報室までご連絡ください。長崎外国語大学・短期大学 入試広報室 TEL 095 840 2022 FAX 095 840 2001 E-mail kouhou@tc.nagasaki-gaigo.ac.jp

2007年度長崎外国語大学・短期大学 オープンキャンパス案内



オープンキャンパス模擬講義のようす

八月十一日(土)、九月十五日(土)にてオープンキャンパスが開催される。他大学のオープンキャンパスと大きく違うところでは、「学長と何でも話そう」のコーナーを設けている点である。規模の小さい一大学とはいえ、大学のトップであり、教育システムの改革起案からカリキュラムの点検にいたるまでを組織化し、その中心でまとめる統括責任者本人が、高校生を中心とした希望者一人ひとりと直接相談に応じることは、まだまだ極めて珍しいことに違いない。日本を代表するドイツ文学者

外国人留学生ホームステイ受け入れ家庭 ホストファミリー募集



本学国際交流センターでは、外国人留学生を受け入れていただけるご家庭を募集しています。留学生に日本語や日本文化を教えてあげてください。期間：春学期(3月末~7月末) 秋学期(9月末~1月末) 約4ヶ月間を前後期に分け、実質2ヶ月間 条件：朝夕2食付で個室が提供可能であること 本学へ毎日通学が可能なこと(本学近郊) 謝礼：60,000円(1ヶ月) ご登録いただいた家庭へ大学から連絡いたします 詳細は、長崎外国語大学/長崎外国語短期大学 国際交流センターまでお問い合わせください。 TEL 095 840 2002 FAX 095 840 2001 E-mail ic@tc.nagasaki-gaigo.ac.jp

であり、ユング心理学の世界的研究者が語るほんもの「ことばのおもしろさ」や人間精神の生き生きとした営み」について身近に触れられる稀有な幸運に浴する生徒には、将来への期待すら覚えるところである。「学長と何でも話そう」のコーナー設置は、今年で三年目になるが、今年もその「強靱な思索の力」が彷徨える若き魂に不動の指針を授けてくれるに違いない。その他では、人気の業界「エアライン」についての講演が目玉を引く。第一線で活躍した経験豊かな卒業生の話は、その業界を目指す者への単なる技術的なテクポイントの指導に留まらない。そこに流れるものは、女性ならではのしなやかな感性と深い洞察力により濾過された爽やかなユーモアに富む先輩からのや

さしい眼差しであり、無私で透明な本音のひとつひとつがほんとうに役に立つ実践的なアドバイスとなっている。おそらく聴く者すべてがエアライン業界の例を超えてコミュニケーション能力、人間力の重要性を再認識する機会となるのではないだろうか。 三回実施されるオープンキャンパスの主要な内容は次の通り。 外大の外国語クラス体験 入試情報・進路相談 留学生と話そう 留学体験談 本学卒業生の講話+懇談 「エアラインへの道」 インターナショナルランチ (無料) 学長とんでも話そう 日本語教員になるには キャンパスツアー(他 (入試広報室 長野雅文)

編集後記

創刊号において前勤務先の大学における目覚ましい発展について述べたが、今回は私の母校と学生時代に臨時職員としてお世話になった東京六大学の一つである某大学について述べてみたい。東京都内に立地する母校へ先日訪問する機会に恵まれた。ここにも近代的な校舎が狭いキャンパス内に所狭しと建立。また向かい側には事務所兼研究室棟が高層ビルとなり、校舎を歩く歩道を挟んで聳え立っていた。立派な施設が次々と誕生し、頼もしくもあったが、私はこの新しくなった高層ビル等を眺めながら、ふと寂しさを感じてしまった。という校舎にしているところも落ち着かない環境に変貌してしまった。確かに老朽化した建物から近代的な高層ビルに代わり清楚な感はあるのだが、その分暖かさが、言い換えれば魂が消え去ってしまったような気がする。 古い校舎には年月が記憶している温もりがある。代々受け継がれた校舎にはその熱き魂が生きているようだ。そういう意味でも、ヨーロッパの人々が伝統的な建物を大切に守る姿勢がなんとなく理解できたような気がする。大学に限らず何もかも古い物を排除し新しい物へと移行することを重視する現代日本の考えに、危機感さえ感じる。この日本のあり方が、環境破壊へと繋がっている事実。ヨーロッパ諸国に比べ大きく後退している日本の環境対策も、古い物への価値観低下の思考スタイルがそれを如実に物語っている。東京六大学の某大学にしても然り。東京都内の中心に高層ビルが聳え立つ変貌したキャンパス。どうもキャンパスとしてのイメージが減少してしまった気がしてならない。本当にこの事が学生の心を掴んでいないのか。学生の望む姿なのか。もっと大切な事が、やるべき事が他にあるのでは。方向性が少しズレているのではと感じるのは私だけだろうか。 「ぶどうの樹」第三号無事発行の運びとなりました。これも皆様のご支援・ご協力の賜でございます。ありがとうございました。心より感謝いたします。